



## てらこや おんな こ なんさい はい 寺子屋に女の子はいたの。何歳から入れたの

### さい だんじょ まな 5～6歳から男女とも学んだ

えどじだい なか ちょうみん のうみん てらこや こ  
江戸時代の中ごろから、町民や農民のための「寺子屋」ができました。子どもたちは、  
さい てらこや はい よ かた か かた てがみぶん しょうかい ひつよう しょうい か  
5～6歳で寺子屋に入り、「いろは」の読み方や書き方、手紙文や商売に必要な書類の書  
かた しゅうじ まな  
き方、習字やそろばんなどを学びました。

もちろん、おんな こ  
女の子もいっしょでした。せんせい ぶし ぼう かんぬし いしゃ  
先生は武士、お坊さん、神主さん、医者などです  
が、おんな せんせい じょしきょういく  
まれに女の先生もいて、女子教育などもなされました。

てらこや にんき えどじだい なか えど いじょう  
寺子屋はとても人気があり、江戸時代の中ごろには、江戸だけで800以上、このほか  
にほん かくち のうそん さか  
日本の各地の農村などでも、盛んになりました。

### しょみん べんきょう ひつよう 庶民にも勉強が必要になった

えどじだい はじ ゆうしゅう ぶし そだ がっこう はんこう ひら  
江戸時代の初めごろは、優秀な武士を育てるための学校、「藩校」が開かれましたが、  
ここでは、むずかしい じゅがく おも はんこう かくち おお はん  
むずかしい儒学などが重んじられていました。藩校は各地の多くの藩ででき、  
おお ぶし まな  
多くの武士が学びました。

えどじだい ちゅうき ちょうにん ちから つよ のうそん せいさんかつどう たか  
いっぽう、江戸時代も中期になって町人の力が強くなり、また農村での生産活動が高ま  
ってくると、しょみん べんきょう ひつよう てらこや う はちだいしょうぐん とくがわ  
庶民にも勉強が必要なることから、寺子屋が生まれたのです。八代将軍の徳川  
よしむね せつきよくてき さか りゅう ひと  
吉宗が積極的にすすめたことも、盛んになった理由の一つです。

てらこや きょういく はってん めいじ はい き がっこうせいど にほん しょう  
この寺子屋での教育の発展が、明治に入ってから決められた、学校制度での日本の初等  
きょういく おお やくだ  
教育に、大いに役立ったことはいまでもありません。（監修・保岡 孝之）

